GMO INTERNET GROUP

2025年12月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要約

2025年11月13日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCFOの安田、インフラ部門統括のGMOインターネット伊藤、広告部門統括のGMOインターネット橋口、GMOフィナンシャルホールディングスCOOの石村より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●連結

【Q1】 純粋持株会社としてのGMOインターネットグループ社の役割について整理したい。P8で紹介された「GMO Flatt Security」、「GMO Omakase」は、非上場でGMOインターネットグループ資本直下の企業だが、今後もこういった、新しい成長企業の排出を担っていくのか？

【A1】 ご認識のとおりです。当社は単にグループ会社株式の保有ではなく、グループ全体成長の司令塔として、インターネット革命後半戦を勝ち抜く役割を持っています。優秀な人財や仲間づくり（M&A）を進め、新規事業立ち上げなどの役割も継続的に担っていきます。（安田）

【Q2】 GMOコマースの新規上場があったが東証の親子上場に対する方針もあり、子会社上場の考え方を改めて聞かせてほしい。

【A2】 私たちはグループ会社上場を重要な成長戦略の一つと位置付けています。上場それ自体が目的ではなく、あくまで成長のための手段であるという基本的な考え方は変わっていません。（安田）

【Q3】 GMOインターネット（4784）のプライム上場維持基準充足に向けた流動性確保の進捗状況をどう捉えていますか？

【A3】 GMOインターネットのプライム市場上場維持はグループにとっての必達目標と捉えています。2026年12月末までの上場維持基準の充足に向け、最適な手段および時期について検討し進めていきます。（安田）

●インターネットインフラ事業

【Q4】 単月黒字を達成したGPUクラウド事業について、来期以降、どの程度の稼働率、粗利率を見込んでいますか？またNVIDIAの新チップ（B300）投入を今後予定されていますが、採算性や収益構造に変化はありますか？

【A4】 第4四半期以降はほぼフル稼働に近い形で推移する見込みです。H200は粗利率50%を当初想定も、他社の動向もあり多少単価の下落がみられますが、概ね順調に推移しています。ただ、競争環境は激しい部分もあるため、投資は慎重に実行したいと考えています。B300については設置段階で価格設定は未定です。（伊藤）

【Q5】 高市政権誕生を受け、経済安全保障分野などAI・ロボティクス領域で国策的な追い風が見込めるのではないか？どういった時間軸で業績が見込めるのか考えを教えてほしい。

【A5】 AI・ロボティクスはまだ試行錯誤のステージであり、特にロボティクス分野は何で収益化していくか見極めが必要だと考えています。ただし、フィジカルAIの時代において、当社のネットインフラやセキュリティといったレイヤーはより必要とされるのは間違いないと考えています。イベント開催など顧客接点を踏まえ、収益化の道を確立してまいります。（安田）

●インターネットセキュリティ事業

【Q6】 セキュリティ事業について、国策的な追い風を受けた短期的な利益加速、または戦略投資の優先。どちらのシナリオの考えが近いですか？

【A6】 セキュリティ分野は、足元業績動向も踏まえ、今後の成長ドライバーとして確立されていく確度は高いと見ていまます。ただし、PL投資など短期的な戦略投資を行う可能性がないわけではありません。（安田）

●インターネット金融事業

【Q7】 インターネット金融事業の利益水準が過去のトレンドから外れて弱くなっています。この背景と、第4四半期以降の業績見通しについて考えを聞かせてほしい。

【A7】 主な要因は、FXの取引ボリュームが全体的に少なくなっていること、及びこれまで利益水準を牽引していたCFDでも一部他社とのスプレッド競争が始まり、収益率が多少下がっていることが挙げられます。収益率が下がったCFDも含め、今後もアクティブユーザーを積み上げていくのが基本的な考え方です。足元FXの顧客基盤が堅調だというのはお話したとおりです。（石村）

●インターネット広告・メディア事業

【Q8】 インターネット広告事業の売り上げ低迷が続いている。現在のネット広告市場の環境をどう見ていますか。また、今後の対策を聞きかせてください。

【A8】 インターネット広告業界全体が大きなシフトチェンジに入っています。主な要因は以下の2点です。まず、AIの普及により、広告主が独自に広告運用するインハウス化が進んでいること。そして、AIをユーザーが使うことによる「ゼロクリック」現象です。これは検索してもAIとのやりとりで完結してしまい、広告メディアに触れることなく離脱してしまう現象です。この状況はまだしばらく続くと見ているため、影響がないグループの自社商材、特にストック化につながる部分に注力してまいります。（橋口）

●キャピタルアロケーション

【Q9】 グループ会社のGMO-PGも配当性向を引き上げたことで、貴社のキャッシュフロー創出力が上がっている。配当・自己株式取得など今後の株主還元の方針、キャピタルアロケーションについて教えてほしい。

【A9】 総還元性向50%という基本方針がベースになり、現時点でどうこうというのはありません。この枠内で、還元と仲間づくり（M&A）含めた投資のバランスを取っていきたい（安田）

以上